

文学研究科

I. 文学研究科の目的と三ポリシー

(1) 文学研究科の目的

① 地域の言語・文学・文化を発掘・保存し、地域・全国・世界に発信する

本研究科が北東北に立地している特性を活かして、地域の言語・文学・文化を理解・研究する。

北東北には、さまざまな方言がみられ、それぞれの地域で息づいている。また、すぐれた作家や文化人が世に出て、多くの作品が残されている。青森県では太宰治、寺山修司をはじめ、葛西善蔵、秋田雨雀、岩手県では宮沢賢治、石川啄木、秋田県では狩野亨吉、内藤湖南などによる。また、民俗文化が豊かにある。ねふたや竿灯といった七夕の祭礼行事のほか、イタコの祭文といった口承文芸、神楽や獅子踊りといった民俗芸能などである。菅江真澄、平尾魯仙などがそれらを記録している。

このような地域の言語・文学・文化を対象にして、地域性や普遍性を追究する。また、狭い地域だけを対象にした過去の研究方法を反省し、笹森儀助が奄美・沖縄をフィールドにしたように異なる地域との比較を行いながら総合的に研究する。さらに、世界的な視野に立った明治時代のジャーナリスト、陸羯南の研究を通して、文化政策の立案も試みる。

加えて、本学の地域総合文化研究所と連携し、他分野の研究者と共同して、学際的研究も行っていく。

こうして北東北の言語・文学・文化を理解・研究し、これらを地域に、また全国に、そして世界に発信できる人材を養成する。

② 日本語・日本文学・日本文化を研究し、広い視野に立つ高度な専門的能力を養う

日本語・日本文学・日本文化研究がめざすのは、人間の営みを解明することである。

とくに日本語・日本文学研究では、ことばを通して人間精神の営みを探究する。そのためには、ことばに関する高度な専門的能力を有する必要がある。また、古代から現代までの日本語の正確な用法に通じたうえで、『万葉集』や『源氏物語』をはじめ、上田秋成や夏目漱石などの文学作品を熟読する必要がある。

こうして日本語・日本文学・日本文化を理解・研究し、これらを社会に還元できる人材を養成する。

(2) 文学研究科の三ポリシー

1. ディプロマポリシー 学位授与の方針

① 日本語・日本文学・日本文化の各分野を研究対象として、各領域の地域性の解明、および内在する普遍性を追究できる能力を身につける。

② 深い専門的知識と広い視野をもって、自ら課題を発見し、調査・研究し、課題解決できる研究遂行能力を身につける。

③ 研究によって得た知見を社会に発信する一方で、積極的なコミュニケーションを通して他者との協働のもとに、地域社会の発展に寄与する能力を身につける。

以上の能力を身につけ、研究科に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に、修士（文学）の学位を授与する。

2. カリキュラムポリシー 教育課程編成・実施の方針

- ① 日本語・日本文学・日本文化の各分野に関する高度な専門的知識を体系的に修得し、とくに北東北をはじめとするそれぞれの地域性の解明、および内在する普遍性を追究できる能力を獲得できるように授業科目を設置する。
- ② 広い視野に立って専攻分野における研究能力や高度の専門性を身につけるため、各分野における「特論」や「演習」の授業科目が計22単位、「課題研究Ⅰ・Ⅱ」が計8単位で、深く・広い専門的知識の修得と、主体的研究能力育成のためのバランスが適切になるように設置している。各分野に関する講義科目の「特論」を中心としたコースワークと、主体的に研究を進め、論文執筆に取り組めるように演習科目の「演習」を主体とするリサーチワークを取り入れ、広い分野の体系的知識の修得と専門的研究能力の育成をはかるための教育課程を編成する。
- ③ 修士論文作成に向けて、コースワークを基礎にして、「演習」以外のリサーチワークとして、自らがオリジナルな研究を行うことを目的にした「課題研究」を1年次より設ける。通年の必修科目「課題研究Ⅰ」（1年次）の上に、「課題研究Ⅱ」（2年次）に設け、「課題研究」を段階的に履修することで研究が計画的に進展するようにする。

3. アドミッションポリシー 学生受け入れの方針

文学研究科は、日本語・日本文学・日本文化に関して、基礎的な理解・知識と課題分析能力（学部卒業程度）を有し、深く探究しようとする人、また、各分野における地域の特質の解明とともに、それを総合的に把握しようとする人、さらに、その研究を通して地域社会の発展に寄与しようとする人を受け入れる。

評価の方法については、論文記述（専門科目）試験、面接試験審査、出願書類審査により総合的に評価する。

Ⅱ. 履修基準、修士論文および学位

(1) 履修基準

- ① 課題研究Ⅰ、課題研究Ⅱ———8単位必修
- ② 自己の所属する指導教員の「特論」、「演習」は、計4単位必修
- ③ 指導教員の「特論」、「演習」必修の他に、「特論」を2科目(4単位)、「演習」を2科目(4単位)必修
- ④ 修了必要単位数は30単位

(2) 修士論文および学位

- ① 修士論文は、各専門に関する主題で、(A)地域の文学・文化、(B)日本文学・日本語学の発展に関わる学術論文とする。
- ② 研究科に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者には、「修士(文学)」の学位を授与する。

(3) 履修指導および研究指導の方法、ならびに修士論文指導スケジュール

- ① 大学院文学研究科日本文学専攻(修士課程)の入学試験の「口頭試問」の段階で、研究テーマとする専門分野・専門領域等を確認する。
- ② 指導教員の内定
1年次の5月の連休明けまでに、指導教員を内定する。
- ③ 指導教員のもとで(1年次)
ア 課題研究Ⅰを開始する。
イ 前期末、後期末に、指導教員の指導を踏まえて、研究の進行を示すレポートを提出する。
ウ 修士課程の修了には原則として修士論文を要件とし、特定の課題についての研究によって修士論文に替えることはしない。
- ④ 全国的規模の学会に1年次より参加する。
- ⑤ 指導教員のもとで(2年次)
ア 課題研究Ⅱを開始する。
イ 修了予定年度の6月末までに、修士論文の題目とその概要とを指定用紙に記入し、提出する。
ウ 前期末に、指導教員の指導を踏まえて、研究の進行を示すレポートを提出する。
- ⑥ 2年次後期のスケジュールは次の通りである。
ア 修士課程論文の中間発表を秋に行う。
イ 修士論文は1月末日に提出する。
ウ 修士論文の発表会を2月中旬に行う。
エ 論文審査ならびに口頭試問を2月下旬までに実施する。修士論文の主査1名、副査1名の計2名で行い、最終的に修了の判定を行う。
オ 修士論文の審査ならびに口頭試問に合格すれば、「修士(文学)」の学位を授ける。

(4) 修士論文の査定と合否

修士論文の成績評価は、提出論文の評価と面接による口頭試問の結果によって総合的に評価する。すなわち、論文評価得点30点以上、面接試問得点30点以上を必須条件として、最終的に修士論文の合否を決定する。

論文の査定は、以下の10項目に関して重点的に審査する。論文の評価は以下の10項目についての5段階評定方式による。総点を50点満点として、30点以上を合格域にする。

- ① 研究テーマについての問題意識、仮説、研究目的、研究目標が明確である。
- ② 新しい課題の指摘や問題提起がなされている。
- ③ その研究方法・手続きが明確である。
- ④ 資料処理、結果の考察が行き届いており、適切妥当である。
- ⑤ 結果の解釈、説明の適切さ、総括的検討がなされている。
- ⑥ 適切な文献引用、注釈が手際よくなされている。
- ⑦ 代表的な著書・論文や代表的な理論、最新文献の引用・参考の提示がみられる。
- ⑧ 文章作成の完成度、文章の整合性、文章内容の明晰さ、論文構成が確かである。
- ⑨ 研究の着想の斬新さや新しい発見などの研究的価値が相当に認められる。
- ⑩ 研究史的視座、将来の展望が明確である。

(5) 修士論文に関する面接試問

修士論文の面接試問は、主として論文に関係する事項について行う。関連して研究者としての資質、パーソナリティと態度などの印象も参考にする。

面接試問の評価は、以下の10項目についての5段階評価方式による。総点は50点で、30点以上を必須条件として合格域にする。

- ① 研究計画の説明・表現力に関して研究計画の内容を簡潔に話せる。
- ② 研究目的、具体的目標を即座に陳述できる。
- ③ 結果を簡潔に陳述できる。
- ④ 聞きやすさと分かりやすさ、話の間のよさ、説得力のある話し方と顔面表情。
- ⑤ 謙虚で誠実な傾聴態度がみられる。
- ⑥ 質問に対応する応答、フィードバックする能力（自己の研究計画の不十分な点や残された問題の気づきと指摘など）
- ⑦ 研究者としての志向性と態度に関して研究活動・学問への情熱、意欲がみられる。
- ⑧ 研究に取り組む際のねばり、こだわり、ひたむきさがある。
- ⑨ 問題意識水準の高さと問題中心の思考態度、思考内容のまとまり具合。
- ⑩ 問題処理過程での分析、総合力と思考水準の高さ、思考の深まりと意識の清明さ。

Ⅲ. 修士課程カリキュラム

科 目	単 位	年 次		備 考
		1	2	
日本文学特論Ⅰ（古代文学）	2	○		6 単位以上 選択必修
日本文学特論Ⅱ（中世文学）	2	○		
日本文学特論Ⅲ（近世文学）	2	○		
日本文学特論Ⅳ（近現代文学）	2	○		
日本語学特論（日本語学）	2	○		
日本文法特論（日本語学）	2	○		
民俗学特論	2	○		
民俗芸能特論	2	○		
漢文学特論（漢文学）	2	○		4 単位以上 選択必修
伝承文学特論	2	○		
地域文学特論	2	○		
地域史特論	2	○		
地域メディア特論	2	○		
日本文学演習Ⅰ（古代文学）	2	○		6 単位以上 選択必修
日本文学演習Ⅱ（中世文学）	2	○		
日本文学演習Ⅲ（近世文学）	2	○		
日本文学演習Ⅳ（近現代文学）	2	○		
日本語学演習（日本語学）	2	○		
民俗芸能演習	2	○		
課題研究Ⅰ	4	○		必 修
課題研究Ⅱ	4		○	必 修

文学研究科 科目履修モデル

[日本語学の場合] (修了必要単位数 30 単位)

	前期	後期
1 年次	日本語学特論 (日本語学)	日本文法特論 (日本語学)
	日本文学特論Ⅲ (近世文学)	日本語学演習 (日本語学)
	日本文学特論Ⅳ (近現代文学)	日本文学演習Ⅳ (近現代文学)
	漢文学特論 (漢文学)	民俗芸能演習
	地域史特論	課題研究Ⅰ
	地域メディア特論	
	課題研究Ⅰ	
2 年次	地域文学特論	課題研究Ⅱ
	課題研究Ⅱ	

[日本文学の場合] (修了必要単位数 30 単位)

	前期	後期
1 年次	日本文学特論Ⅰ (古代文学)	伝承文学特論
	日本文学特論Ⅲ (近世文学)	日本文学演習Ⅰ (古代文学)
	日本文学特論Ⅳ (近現代文学)	日本文学演習Ⅳ (近現代文学)
	漢文学特論 (漢文学)	日本語学演習 (日本語学)
	地域史特論	課題研究Ⅰ
	地域メディア特論	
	課題研究Ⅰ	
2 年次	地域文学特論	課題研究Ⅱ
	課題研究Ⅱ	

[日本文化の場合] (修了必要単位数 30 単位)

	前期	後期
1 年次	民俗学特論	伝承文学特論
	民俗芸能特論	民俗芸能演習
	日本文学特論Ⅰ (古代文学)	日本文学演習Ⅰ (古代文学)
	日本文学特論Ⅳ (近現代文学)	日本語学演習Ⅳ (近現代文学)
	地域史特論	課題研究Ⅰ
	地域メディア特論	
	課題研究Ⅰ	
2 年次	地域文学特論	課題研究Ⅱ
	課題研究Ⅱ	